いばらき教員応援団へのメッセージ

「いばらき教員応援団」HP、ご挨拶の中に「日本の世の中全体が、あらゆる分野で、非常に悪くなってきている。先生方に高い志のもと高い理想のもと次の時代を担う青少年と子供達を育成させていただく他に道はない」という熱い思いが掲載されていた。この思いを真正面から受け止め、襟元をただし、校務に臨まねばならないと痛烈に思うとともに、このような機会を持って下さった皆様に感謝いたします。また、今回の講師である白駒先生の講演を拝聴し、逆境を乗り越えるために歴史から学ぶべきことが多いということや、人を思いやることの大切さを再確認させていただきました。

（高等学校 教頭）

「いばらき教員応援団」創設者髙野先生の思いに触れ、胸が熱くなった。上甲先生のご講演では「熱心さが最大の説得力！管理で人は育たない」「聴く力の大切さ」等、ハッとさせられる言葉が心に残った。自分はどうか？自問自答しながらも、私達教員に期待を込め、応援してくださる方が大勢いる…そう思えた帰り道は、「よし、頑張るぞ！」と元気が出た。このような機会を設けていただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（特別支援学校 校長）

日本を代表する一流講師による「いばらき教員応援団」の研修は、新任教務主任・教頭・校長と私自身のキャリアステージの節目に力強いエールとなりました。この10年以上に渡る事業に感謝し、期待に応えるためにも、茨城県の教育力の向上を目指し、スクールリーダーとして志を高くもち、学校経営に尽力して参ります。

（中学校 校長）

令和6年度事業計画

○ グループ別研修会

①参集型（県立高等学校等・県立特別支援学校の対象者は会場に参集、講演を録画）
5月22日(水) 新任校長・副校長
6月 4日(火) 新任教頭
6月18日(火) 新任教務主任・主幹教諭・指導教諭
会場：水戸プラザホテル
②オンデマンド型（市町村立学校の対象者）
夏休み中にオンデマンドで動画を視聴する

○ 特別研修会

令和6年度特別研修会の講師、開催形式（日時・会場を含む）等については調整中です。
参加対象者、参加方法についても後日連絡します。

～研修会動画の積極的な活用について～
※「グループ別研修会」及び「特別研修会」は、研修対象者以外の方も動画視聴が可能です。
（動画視聴URLやパスワードは追って通知します。）
※学校の校内研修等で積極的にご活用ください。

いばらき教員応援団〈役員一覧〉

【役員】

代表理事			監事	
幡谷　史朗	茨城トヨタ自動車株式会社		増山　英和	増山会計事務所
副代表理事				
鈴木　勝彦	株式会社鈴木良工務店			

【理事】

青谷　英将	株式会社坂東太郎	鈴木　達二	鈴縫工業株式会社
鬼澤　慎人	株式会社ヤマオコーポレーション	関　正樹	関彰商事株式会社
加藤　敏彦	茨城日産自動車株式会社	内藤　学	水戸ヤクルト販売株式会社
鯨岡　則雄	株式会社大宮自動車学校	沼尻　年正	沼尻産業株式会社
栗山　武志	栗山電気株式会社	藤田　卓也	株式会社フジタビジネスマシンズ
坂場　英利	株式会社白英社	和田　幾久郎	株式会社祐月本店

今後も広く県民の皆様のご参加をお願いいたします

〈趣旨に賛同される方へ〉
趣旨に賛同される方は、いばらき教員応援団のホームページから入会申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記の問い合わせ先に郵送でお申し込みください。

いばらき教員応援団　http://www.ibaraki-tcp.jp

【問い合わせ先】
茨城県教育庁学校教育部 義務教育課・高校教育課
いばらき教員応援団事務担当
〒310-8588 茨城県水戸市笠原町978-6　TEL.029-301-5226（義務教育課）・5260（高校教育課）

いばらき教員応援団

For the future of Ibaraki children　No.13

令和5年度の事業内容をご報告いたします



令和5年度事業概要

目的	日本を代表する一流講師による講演会を開催し、講話を通して、総合的な教師力の向上に資することを目的とする。
対象者	市町村立小・中学校等、県立高等学校等、県立特別支援学校 ・新任校長・副校長　・新任教頭 ・新任教務主任　・新任主幹教諭 ・新任指導教諭
研修会	○グループ別研修会 （参集とオンデマンドでの動画視聴） 5月23日(火)、6月6日(火)、6月21日(水) ○特別研修会 （参集とオンデマンドでの動画視聴） 6月29日(木)

ごあいさつ



代表理事
幡谷　史朗

本事業は、令和4年にご逝去された髙野理事長の「日本の世の中全体が、あらゆる分野で、非常に悪くなってきている。このままでは日本の将来は大変な事になる。それには、学校の先生方皆様に高い志のもと、高い理想のもと大いに奮い立っていただき、次の時代を担う青少年を、子供達を正しく育成していただく他に道はない」という思いに賛同する、企業や県民の皆様をはじめとする多くの方々のご尽力によって発足し今日にいたります。

いばらき教員応援団は、今後も髙野理事長のご遺志を受け継ぎ、本事業の更なる発展に努めてまいります。

「教育」とは、児童・生徒の人格を形成するすなわち、彼ら彼女らがその後の人生における自分自身の「理想図」を描く事に寄り添う事であると考えます。先生からの教えが、どの様に自分自身が捉え、噛み砕き消化し、何時の時点で「血」となり「肉」となるかは、本人達でさえ判りません。

直ちに成果が現れてこない、時間がかかる、たとえ判ったとしてもその時、目の前にもう「恩師」はいない。小学校6年間、中学校3年間、高校3年間（多くの全日制の場合）、合計12年間でどれだけの思いが相手に届くか？なかなか手ごたえを感じる事ができないのが、「教育」です。

ひたすら待つ、成長を待つ、気づきを待つ、目覚めを待つ、ここに集うみんなで児童・生徒に寄り添い、一緒に明るい「未来」を作りあげて参りましょう。

さて、多くの皆様のご支援ご協力に依り、13年目の事業を無事終了することができました。研修に参加された多くの先生方が、講演内容に感動され、その気付きからこれからの教育活動に研修の成果を存分に生かして下さるものと考えております。

今後も、茨城の教育力のさらなる向上、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」ための社会貢献の一環として、茨城の教員の皆さんを応援して参ります。

ここに広く、県民の皆様の、この事業へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

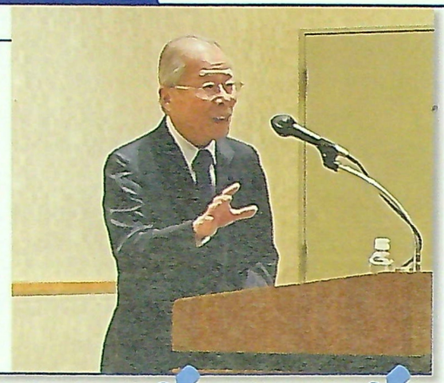
いばらき教員応援団:http://www.ibaraki-tcp.jp　　茨城県教育委員会:https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/index.html

For the future of Ibaraki children

グループ別研修　5月23日(火)●新任校長・副校長[参加者 42(企業21)名]

演題

以て範を示す



●講師

上甲 晃 氏　有限会社 志ネットワーク社代表

「志の高い日本」は、「志の高い日本人」によってこそ実現するとの思いに立ち、志ネットワーク活動を展開している。また、活動の一環として、「青年塾」を創設し、青年の人間性向上の研修に取り組んでいる。著書『志を継ぐ』『志のみ持参』(致知出版社)、『志高く生きる』(致知出版社)、『青年塾の合い言葉1～5巻』他多数

受講者の感想より

「教育は聖職、最高の仕事」の言葉に、私の思いは、新鮮に清められました。体験等を通して心を育て、管理だけでは育たない人間力を高める人材育成に取り組みたいと思います。そのためにも、自分自身を変え、本気や熱意をもって教職員と共に学校経営に励みます。(中学校 校長)

知識技術よりも、熱心であること。管理では人は育たず、率先垂範。そして、流汗悟道。人間力が本当の力になる。上甲先生の教育に対する思いを拝聴し、たくさんのエネルギーをいただき充実した時間となりました。変わる努力に努めていきます。(中学校 副校長)

業務に追われ、目先のことに心を奪われがちな日々の中で、教育に携わることの意味、尊さを振り返る良い機会となりました。学校という組織を束ねる者が、自ら高い志を持って範を示すことが、先生方の意識を高め、ひいては生徒たちの高い志を育てることにつながることが良く分かりました。朝、校門の前に立って、生徒1人1人に「おはようございます」と声をかけてみることから始めようと思いました。(高等学校 副校長)

特に印象に残った言葉は、トップに立つ者は誰よりも「熱心さ」で負けなければ道は開ける。知識や技術よりも「熱心」、管理で人は育たない、本当の教育は知識を高めることではない。人間そのものの価値を上げること。座学より体験・経験、人の話を聴くことが大切。校長は現場の声を聴く。聴き方に心が出る。本当に大事なことは平凡の中にある。背中に人格が出る。当たり前の中で人格を育てる。人を変えることはできない。自分が変わる。以上のことやマザーテレサの話をあらためて聴いて再度確認できた。すぐに実践していきたい。ありがとうございました。(特別支援学校 校長)

グループ別研修　6月6日(火)●新任教頭[参加者 57(企業17)名]

演題

歴史を学ぶと希望が生まれる



●講師

白駒 妃登美 氏　株式会社 ことほぎ代表

大病を患い、命と向き合うなかで、先人たちの生きざまを振り返り、『未来の自分に必要なことが、いま起こっている』という気づきを得て『今を受け入れ、最善を尽くし、平然と生ききる』覚悟を定める。生き方を変えたことで病状が奇跡的に快復した経験から、先人たちの『志』や、そこに生きた人々の『思い』に触れる歴史の講演を開始。『日本人に生まれてよかった』と涙する人が続出。コロナ前の年間講演依頼は200回を超えていた。コロナ後はオンラインの勉強会を立ち上げ、活躍の幅を広げている。令和4年には、有識者と超党派の議員による『教育立国推進協議会』発起人に選出され、『幼児期の和ごころ教育』普及に力を尽くしている。さまざまなメディアにも多数出演している。著書『人生に悩んだら『日本史』に聞こう』(共著 祥伝社)、『感動する!日本史』(中経出版)、『ところに残る現代史』(KADOKAWA)他多数

受講者の感想より

「教育」は人々を幸せにし、喜びの源になることを吉田松陰の人生からあらためて感じました。他人のために尽くすことで最高の幸せを感じることができる教員という職業に誇りを持てるお話をいただきました。吉田松陰の生き様から、困難な状況でも学び成長し、学び続けることの重要さを学びました。(中学校 教頭)

教員の仕事の重要性を改めて実感できる講演でした。自分という存在が誰かの喜びの源になること、実態のないものを共有できること等、指導だけでなく共感することが重要だと感じました。教育は国を支える重要な役割であることを意識し、職務を遂行していこうと思います。(中学校 教頭)

参考図書であった2冊の本を拝読してから講演に参加させていただきました。講演では、参考図書には記されていなかった話題にも触れていただき、「大人が子どもにちゃんと向き合い、豊かな感性を育み、子供たちの可能性を引き出せるよう」に私たち、教員が志を持って日々、業務に取り組むべき精進をし続けようと、教員人生のゴールに向けた仕事観を呼び覚ましていただきました。(高等学校 教頭)

講演の途中で、何度も胸に手を当てる場面がありました。「人生の壁は扉。壁にあたったら一歩下がって視野を広げる。」「働くとは、目の前や身近にいる人に笑顔になってもらうこと。」「教育が国を支える。」「教育の成果は何十年後に現れる。その間、教育者が祈り続ける、その祈りが成果につながる。」等、一つ一つの言葉を噛みしめ、「志」をもって、人を感化できる者に少しでも近づいていきたいと強く感じるお話でした。このような機会を与えていただきありがとうございました。(特別支援学校 教頭)

グループ別研修　6月21日(水)●新任教務主任・主幹教諭・指導教諭[参加者 48(企業20)名]

演題

リーダーシップの本質
最高の職場・クラスを創るためにおすすめしたい5つの捉え方



●講師

木下 晴弘 氏　株式会社 アビリティトレーニング 代表取締役

「授業は心」をモットーに、学力だけではなく人間力も伸ばす指導は、生徒、保護者から絶大な支持を得た。以後10年間にわたり、講師および広報・渉外・講師研修など様々な業務を経験。現在、株式会社アビリティトレーニングの代表取締役として、全国の教育機関で、教員・保護者・生徒向けのセミナーを実施している。そして、そのセミナーは様々な分野の各企業からも注目され、いまやセミナー受講者は400,000人を超えている。著書『ココロでわかると必ず人は伸びる』(総合法令出版)、『できる子にする「賢母の力」』(PHP研究所)、『涙の数だけ大きくなれる!』(フォレスト出版)、『木下流人を動かすプレゼンの極意』(動画プログラム)他多数

受講者の感想より

子供に対しても、同僚に対しても、現象ではなく本質を見抜きアプローチすることの必要性を強く感じることができました。また、「自分が源泉」の考えを意識し、自分が率先して行動していくことで、教務主任として先生方を引っ張っていきたい。仕事へのモチベーションがとても高まりました。(中学校 教務主任)

今まで、自分にはなかった新たな視点の置き方、物事への対応の仕方に気づかせていただける貴重な機会となりました。行動の裏にある、生徒や先生方の本質は何か？いつもその視点を意識し、職務遂行に精進してまいります。(中学校 指導教諭)

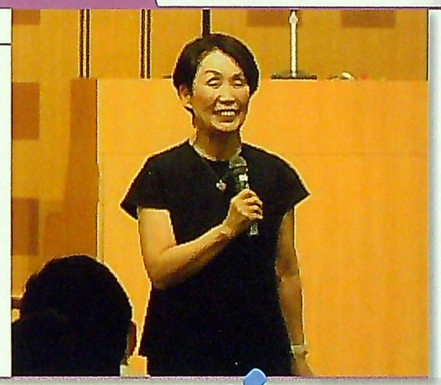
現象の裏にある本質を理解しないと物事に対応できないことを学びました。また、物事の捉え方ひとつで、その人の未来も変わってくるという話も印象的でした。仕事をしていく上で役立つ内容が多く含まれ、有意義な時間を過ごすことができました。(高等学校 教諭)

「10年前に話を聞いていれば…子育てが少し変わったかも。」木下ワールドに引き込まれ、こんなことを考えていました。存在承認の捉え方ができれば子供へのアプローチが変わっていたかもしれません。本質を見抜く視点を仕事の面でも大切にしていきたいです。(特別支援学校 教諭)

特別研修会　6月29日(木)●市町村立小学校の対象者[参加者 240(企業16)名]

演題

「みんなの学校」をつくろう！
～誰一人取り残さない学校づくりを目指して～



●講師

木村 泰子 氏　大阪市立大空小学校初代校長

2006年に開校した大阪市立大空小学校の初代校長を9年間務める。大空小学校では「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たちとともに障害の有無にかかわらず、すべての子どもがいつもいっしょに学び合っている。2015年には大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー映画「みんなの学校」が公開され、大きな反響を呼んだ。この映画は文部科学省の特別選定作品にも選ばれ、現在も全国各地の教育現場などで自主上映されている。2015年春に、45年間の教員生活を終え、現在は講演やセミナーで全国の人たちと学び合っている。著書『学校の未来はここから始まる』(教育開発研究社)、『「みんなの学校」から社会を変える』(小学館)、『21世紀を生きる力』(水王舎)、『タテマエ抜きの教育論』(小学館)他多数

受講者の感想より

未来を生きる子供たちを誰ひとり取り残さず教育の権利を保障してあげるためには、我々教員の意識改革が不可欠だということを改めて感じました。木村先生もおっしゃっていましたが実際は失敗したり悩んだり試行錯誤の繰り返しだったと思います。しかしゴールがぶれないよう意識し、同僚と協働することでそのゴールにたどり着けるのだと勇気をいただきました。(小学校 校長)

「すべての子供の学習権を保障するこが学校の最大の目標である。」と言いきれる潔さと自信に感銘しました。「子供たちが1日の学びを納得して帰る。」という言葉を聞き、私達教職員の責任と子供に向かう覚悟をあらためて意識できました。全職員が一人一人と向き合う日々を重ねていきます。(小学校 副校長)

木村先生のお話を聞き「みんなの学校」の考え方がよく分かりました。みんなで意見を出し合い、子供たちにとって何が最善なのか、そして、それを実現するにはどう関われば良いのかなど参考になりました。今回の講演を生かし、学校が子供たちの安全基地となるよう努めていきたいと思います。(小学校 校長)

「すべての子どもの学習権を保障する」これを学校の最上位目標として全ての教員が教育活動に当たれば、大きくぶれることもなく、子ども中心の学校になるのではないかと、再認識することができました。少しでも理想に近づけるよう、周囲の仲間を巻き込みながら明日からの教育活動に当たりたいと思いました。(小学校 教務主任)

令和5年度教員応援団対象者数(オンデマンド参加を含む)

小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校

●校長169名　●副校長32名　●教頭244名　●教務主任231名　●主幹教諭10名　●指導教諭9名

●計695名